



## 坂本龍馬像（新上五島町）

『竜馬がゆく』

司馬遼太郎

『サムライの海』

白石 一郎

亀山社中の志士たちを乗せた帆船「ワイル・ウエフ号」は、長崎から鹿児島へ向かう途中、新上五島町江ノ浜沖で暴風雨に遭い転覆した。寺田屋事件後療養中に悲報を聞いた龍馬。自ら上五島に渡り、碑文を書き、土地の庄屋に同志への鎮魂を依頼したといわれている。

『竜馬がゆく』で、司馬遼太郎は、そうした龍馬の姿にも触れている。

一方、白石一郎は、『サムライの海』で、捕鯨史における「守旧」と「革新」の葛藤を描いている。主人公蘭次郎が遭難したのが、「ワイル・ウエフ号」事件である。

上五島の自然、捕鯨史、若者の夢、そして坂本龍馬。海洋小説で右に出る作家はいないであろう白石一郎は、『海狼伝』で第九十二回直木賞を受賞した長崎ゆかりの作家である。龍馬ら亀山社中の若き志士たちを支援した大浦慶をモデルにした小説『天翔ける女』もある。